

二学期になるとクラスがだらける。
どうしたものか…。

「みんなでひとつ
になろう!」と、
スイッチオン



Dr. 諸富の 元気になる! 悩み相談

[回答者]

諸富祥彦 (もろとよしひこ) 先生：
明治大学文学部教授、臨床心理士、教育学博士。
全国の悩める教師のためのセルフヘルピングや
ネットワーキングを支援する「教師を支える会」代表。
<http://morotomi.net/>

夏休み明けからクラスがだらけてしまうことはよくあります。何となくだらけているなど気づいたとき、すぐさま活を入れることが大事。「山場は秋なんだ。みんなでひとつになって、ピリッとしたクラスにしよう!」としっかり檄を飛ばし、「先生、気合入っているな」としてもらうことです。そうやって、教師が生徒のスイッチをオンにする役割を担うことが大切です。そうすると、クラスの雰囲気さがらっと変わることもあります。

とかく教師自身も、「何だかだらけている」とぶつぶつ言いながら、「夏休み明けだからしかたない」とそのままにしがちです。でも、本当は、何となくだらける芽は、1学期にすでに潜んでいたということもけっこうあるのです。

例えば、「私語」。授業内容に関することから、授業中の私語を見逃していませんか? それが馴れ合いとなって、ルールが確立できずにズルズルとなっていく。よくあるパターンです。

クラス全体の雰囲気として「活気がある」の

と「騒がしい」のは異なります。「騒がしい」のが普通の状態にならないよう締めていくには、教師が生徒と馴れ合いにならず、守るべきルールは徹底させることも大切です。

まず、他の生徒の話聞くことを徹底させてください。全員が他の人の話をきちんと聞いてから話すというルールを定着させる。「聞く力」が伸びると「話す力」もついて、普通の私語も減っていきます。

夏休み明けは、クラスの雰囲気を変える最大のチャンスです。夏休みを挟んで久しぶりに会った生徒同士は互いにちょっと距離ができていて、新たな気持ちで切り替えられる絶好の機会。フルーツバスケットなどで生徒同士の親しみを取り戻す一方、グループ分けしてジグソーパズルの完成を競うなど、チームワークを良くするグループワークトレーニングを行ってみてはいかがでしょうか。

「ルールを守る」と「触れ合いを楽しむ」という2つの要素を踏まえて、クラスを一つにしていくことが重要です。